

2017年8月。半世紀ぶりに、日光・鬼怒川地区にSLを復活させた東武鉄道。そのSL「大樹」の拠点となる下今市駅が、昭和レトロ感をコンセプトとした全面改修を実施し、照明器具に特注のLED照明を採用。3000Kの温かな光により、かつてSLが走っていた時代を彷彿とさせる風情ある光環境を創出しています。

栃木県日光市に位置する下今市駅は、東武鉄道の日光線と鬼怒川線の分岐点で、鬼怒川線の起点駅となっています。また同時に、鉄道産業文化遺産の保存と活用、日光・鬼怒川エリアの活性化、さらには東北復興支援の一助となることを目的とした、東武鉄道SL復活運転プロジェクトの拠点でもあります。SL「大樹」の運行に伴いリニューアルした駅には、SL機関庫、転車台広場、SL展示館が併設され、鉄道ファンはもちろん、日光や鬼怒川温泉への観光客にも喜ばれています。



【物件概要】
所在地：栃木県日光市今市 1110
駅構造：地上駅
ホーム：島式ホーム2面4線
施工：建築／東武建設㈱
電気／東武電設工業㈱
リニューアル完成：2017年8月



ホームの照明 電球色のLEDベースライト①と、LEDブラケット②により、2本のホームを含む駅全体で昭和レトロ感を演出

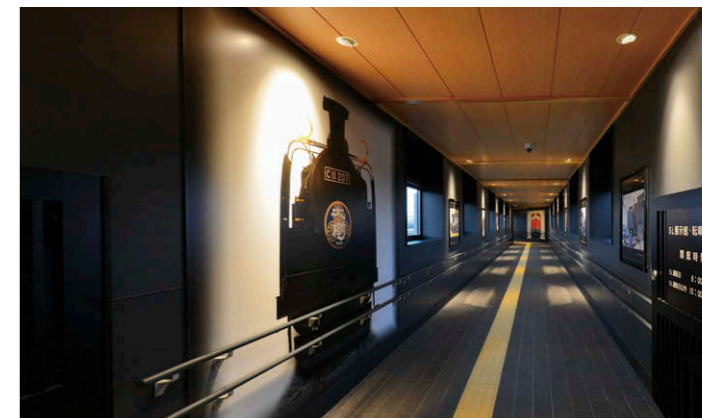
SL 全盛期を思わせる風情豊かな鉄道風景の演出と、LED による省メンテナンス・省エネを両立。

東武鉄道のSL復活運転プロジェクトに伴いリニューアルされた下今市駅のコンセプトは、SL全盛期を思わせる昭和レトロ感の演出です。これは、日光・鬼怒川地区に限り駅従業員の制服までもSL時代のデザインに変更するほど徹底されています。

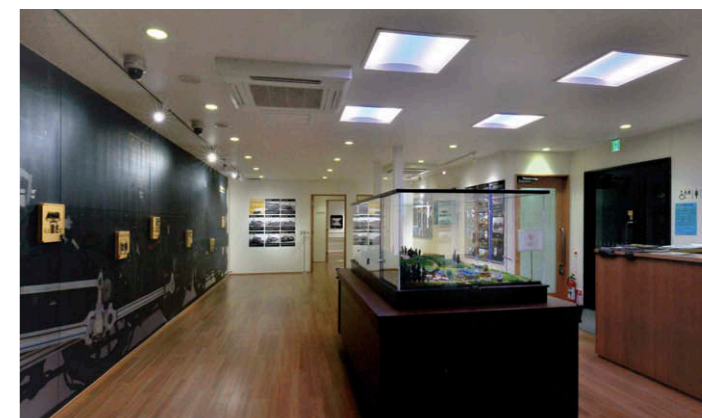
そのため、ホームの照明は、建物全体のデザイン、濃い色調、木の質感に調和するよう電球色（3000K）のLED照明で構成。ホーム灯となるLEDベースライトは、金属の質感を感じさせることなく風景に溶け込むよう、本体を設置場所と同色のダークブラウン仕様とし、約5m間隔

で配置しています。また、ホーム上の柱には昔懐かしいカンテラを想像させるLEDブラケットを、同様の本体色で配置しています。

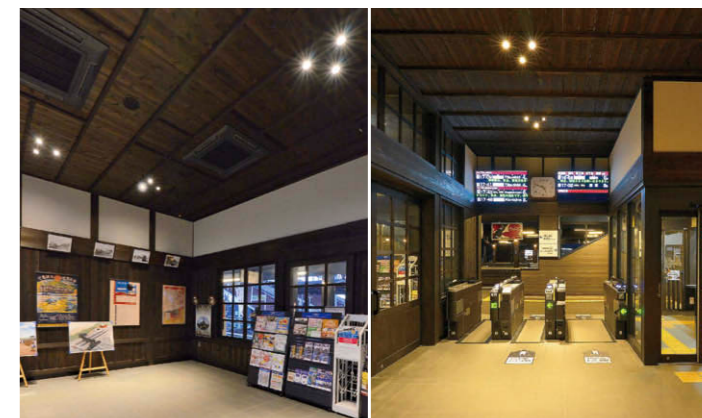
ホーム全体で、乗降客が安全に乗り降りできる必要な明るさを確保しながら、個々の器具においては、列車の走行に伴う振動や風圧への対応、浸水に対する密閉性の確保、電源に含まれている高周波やノイズへの対応も徹底。昭和レトロ感の演出と同時に、省メンテナンス・省エネも両立しています。



SL展示館入口通路 歩行に必要な照度を確保しながら、SL復活運転プロジェクトに関する掲示物を照らすLEDユニバーサルダウンライト③



SL展示館の照明 鬼怒川線沿線をモデルとした鉄道ジオラマではSORAIRO[ソライロ]④とLEDユニバーサルダウンライト③を採用



駅舎待合室の照明 木の風合いを生かした駅舎内には、LEDダウンライト⑤を3灯一組で配置。明るすぎないノスタルジックな雰囲気演出

① LEDベースライト



② LEDブラケット



④ LEDベースライト

TENQOOシリーズ SORAIRO[ソライロ]



③ LEDユニバーサルダウンライト

主な掲載器具一覧

設置場所	器具名(品名)	形名	台数	備考
ホーム	①COBx4-LD9 ホーム灯 軒下用	COBx4-LD9	120	LED 消費電力 43.0W
ホーム・駅外壁	②特注ブラケット	BRACKET-BR02、BR03	124	LED 消費電力 5.2W
ギャラリー展示室	④TENQOOスクエアソライロ調光調色 LEDスポットライト1500白塗	LEKR760125BC-LC9 LEDS-15116W-LS1	4 16	LED 消費電力 65.0W LED 消費電力 13.7W
ギャラリー展示室他	LEDライトエンジンダウンライト白色深形 ⑤LEDユニバーサルダウンライト1500	LEDD-16303(W)-LD9 LEDD-15023L	96 33	LED 消費電力 13.8W LED 消費電力 15.2W
駅舎	⑥LEDダウンライト	LEDD87000L(K)-LS	26	LED 消費電力 6.4W

改札の照明 待合室との連続感を意識してLEDダウンライト⑥を3灯一組で配置